

かぼちやの品種比較試験

技能員 高橋 志稀

1. 目的 南瓜の新規系統品種や既存の品種を栽培・調査・比較をすることで、収量性や貯蔵性を確認する
2. 協力機関 タキイ種苗(株)・トキタ種苗(株)・(株)サカタのタネ・朝日アグリア(株)カネコ種苗(株)・雪印種苗(株)・(株)渡辺採種場
3. 試験圃場 和寒町農業活性化センター圃場(三笠圃場)

4. 耕種概要

土壌診断結果

pH	EC	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	CaO	熱水抽出窒素
5.553	0.035	19.9	26.1	19.9	282.2	12.2

- 土壌型：灰色低地土
- 土性：埴壤土
- 栽植密度：畝間 300cm 株間 70cm (476 株/10a)
- 施肥内容：ASUS-082 N10-P18-K12-Mg 3 /20kg
S444 N14-P 4 -K14-Mg 6 /20kg
- 施肥設計：ASUS-082 45kg/10a 基肥・作条施肥 (476 株/10a)
S444 32kg/10a 追肥・全層施肥 (476 株/10a)
消石灰 40 kg/10a
- 栽培条件：放任
- 防除概要：7/4 コサイド 3000(2000 倍)
7/19 ダコニール 1000(1000 倍)・スミチオン乳剤(1000 倍)
- 播種日：5/31
- 施肥日：5/31
- 移植日：6/12
- 開花始：7/7
- 追肥日：7/19
- 収穫始：9/7
- 最低積算温度：1 番果 1052℃
2 番果 973℃

5. 供試品種

えびす (タキイ種苗) くり将軍 (トキタ種苗) ほろほろ (カネコ種苗)
 ブラックのジョー (サカタのタネ) 栗政宗 (渡辺採種場) SQ027 (雪印種苗)
 SQ028 (雪印種苗) No. 21120 (朝日アグリア) No. 2122R (朝日アグリア)

6. 収量調査

品種比較試験	第1平均着果 節位 (cm)	第1最大着果 節位 (cm)	第1最小着果 節位 (cm)	1個当たり 平均 (kg)	1株当たり 個数 (個)	最大重量 (kg)	最小重量 (kg)	10a当たり収量 (kg)	日焼け率 (%)
えびす	84	170	30	1.70	2.0	2.5	1.0	1,577	28.2
くり将軍	71	120	30	1.85	1.4	2.4	1.2	1,236	32.1
ほろほろ	61	180	15	1.77	1.6	2.4	1.0	1,349	15.6
ブラックのジョー	62	110	30	1.53	2.4	2.4	1.0	1,743	14.6
栗政宗	44	80	20	1.66	1.9	2.3	0.9	1,497	26.3
SQ027	64	160	20	1.70	1.7	2.4	0.9	1,377	17.6
SQ028	96	200	40	1.92	1.8	2.7	1.0	1,601	8.6
NO.21120	102	190	50	1.64	1.9	2.3	0.8	1,484	18.4
NO.2212R	22	30	20	1.74	1.6	2.3	1.3	1,323	12.5

- 1株当たり個数は、1.4~2.4 kgの間で2個以下が大半であった。
- 1個当たり平均重量は、1.53~1.92 kgの間で6~7玉サイズが多くあった。
- 収穫期の天候が悪く、日焼けが多くあった。

7. 果実内特性

果実内特性 (R5)	糖度 (度)			貯蔵性 (1-4)
	10月	11月	12月	
えびす	15.7	13.6	15.1	2.5
くり将軍	16.6	15.0	16.7	3.7
ブラックのジョー	15.5	17.1	19.0	3.5
栗政宗			17.5	3.7
ほろほろ		16.0	18.3	3.7
SQ027	15.5	14.1	16.3	3.5
SQ028		14.2		3.5
NO.21120	14.5	16.0		2.5
NO.2212R		13.4	20.5	2.7

※貯蔵性

- 1 → 10月始めまで
- 2 → 11月始めまで
- 3 → 12月始めまで
- 4 → 1月始めまで

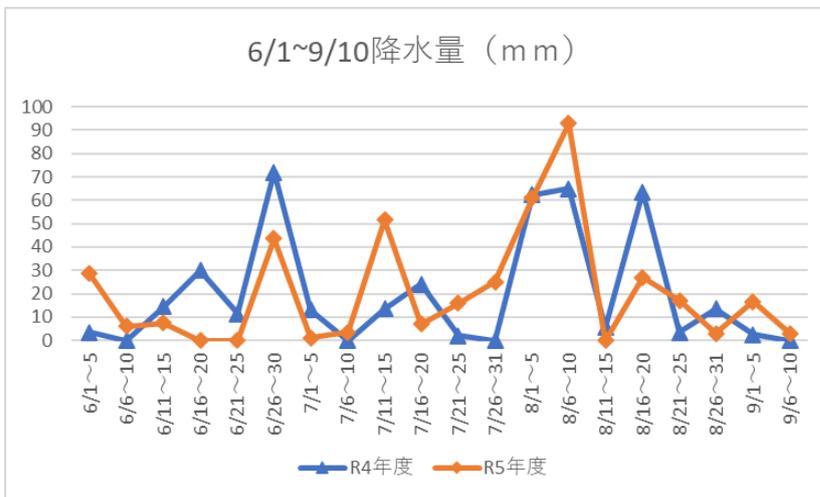
- 糖度は全体的にも良く、例年並みだった。
- 例年より腐敗が早く、えびすで11月中旬には腐敗が多くあった。また、貯蔵性が良い品種は12月中下旬まで腐敗が少ない結果となった。

8. 食味調査

R5年度	甘さ(1甘くない-5甘い)			R5年度	粉質(1粘質-5粉質)			R5年度	総合評価(1-5)		
品種	10月	11月	12月	品種	10月	11月	12月	品種	10月	11月	12月
えびす	3.0	3.0	3.0	えびす	3.0	3.0	3.0	えびす	3.0	3.0	3.0
くり将軍	2.8	2.3	3.0	くり将軍	3.4	3.3	2.8	くり将軍	3.1	2.2	2.6
ブラックのジョー	2.4	3.0	3.2	ブラックのジョー	3.4	3.3	2.9	ブラックのジョー	2.7	3.1	3.5
栗政宗			2.6	栗政宗			3.0	栗政宗			2.5
ほろほろ		3.5	2.3	ほろほろ		3.3	2.9	ほろほろ		3.3	2.5
SQ027	2.2	3.7	2.5	SQ027	3.5	3.0	2.9	SQ027	2.6	3.7	2.9
SQ028		3.3		SQ028		3.4		SQ028		3.5	
NO.21120	3.1	2.4		NO.21120	3.2	3.3		NO.21120	2.4	2.7	
NO.2212R		3.2	3.0	NO.2212R		3.3	2.9	NO.2212R		2.7	2.6

○食感・風味とも品種それぞれ差があり、12月でも粉質感のあるかぼちゃが多数あった。

9. 考察



6/1~9/10 降水量

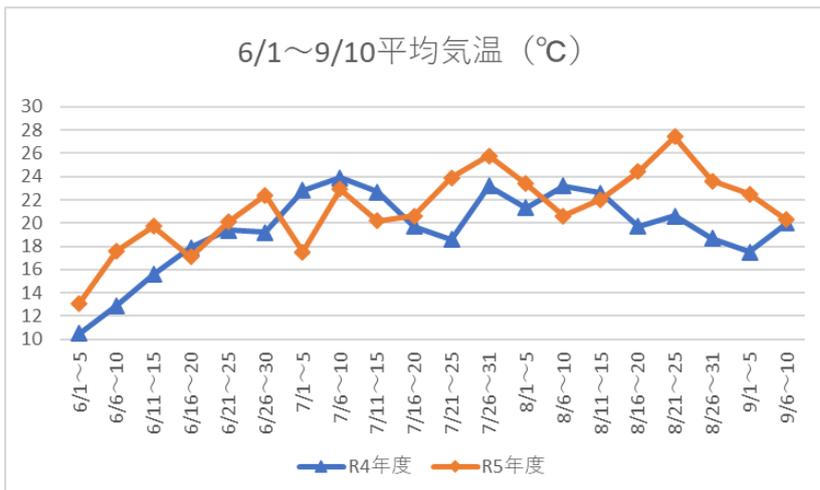
R 4 年度 400mm

R 5 年度 410mm

着果~収穫の降水量

R 4 年度 374mm

R 5 年度 323mm



最高気温

R 4 年度 31.7°C

R 5 年度 35.4°C

最低気温

R 4 年度 4.2°C

R 5 年度 2.8°C

- 収 量 面：7月中旬から気温上昇し、高温の日が続き2番果の落花により着果せず減収となり10a当たり2000kgを下回ったと予想される。降水量はR4年度と同等だが、7月下旬～8月上旬にかけて、肥料成分が流れるほどの大雨が降ったため果実の肥大に影響を与えたと考えられる。また、急な温度上昇・低下、大雨により減収とともに日焼けの増加が見られた。
- 果実内特性：平均糖度はR4年度で18.7度、R5年度で16.0度とR4年度と比べ平均並みではあるがR5年度は腐敗が少し早い印象であった。
- 食味調査：R4・R5年度では着果から収穫までの降水量が平年より多いため、果実内水分が高く、粘質感のある食感が多くあった。R5年度の方が50mm降水量が少なく紛質感が少しあった。

10. 考察まとめ

- 降水量は同等でもR4年度は2000kg超え、R5年度は1500kg前後と500kgの差が出てしまった原因として、干ばつや高温による生育の変化だと考える。生育適温は17～20℃と低めであるため、収量に影響があると考えられる。
- 遅播きでの2番果は7月中旬から気温上昇が予想され、落花し着果不良が起こり過度な遅播きは減収に繋がってしまうと考えられる。

11. 今後について

- 随時、今後の主力品種になるものがあれば、栽培・調査等実施していきたいと思う。